



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—トランプ期待強く大幅高で各指数が史上最高値を更新—

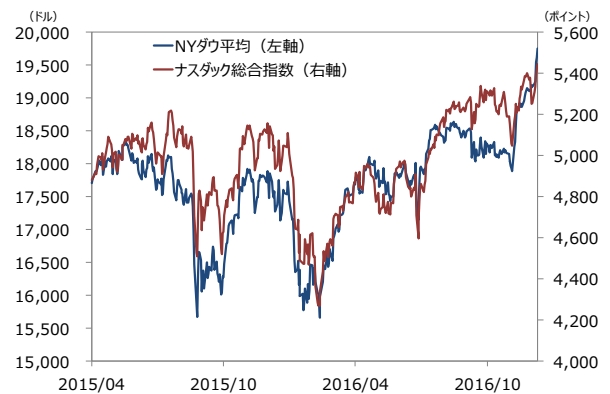
	前週終値	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	19,170.42	19,216.24	19,251.78	19,549.62	19,614.81	19,756.85	+586.43	+3.06%
騰落幅		+45.82	+35.54	+297.84	+65.19	+142.04		
S&P500	2,191.95	2,204.71	2,212.23	2,241.35	2,246.19	2,259.53	+67.58	+3.08%
騰落幅		+12.76	+7.52	+29.12	+4.84	+13.34		
ナスダック総合指数	5,255.65	5,308.89	5,333.00	5,393.76	5,417.36	5,444.50	+188.85	+3.59%
騰落幅		+53.24	+24.11	+60.76	+23.59	+27.14		

＜先週の概況＞

先週の米国市場はトランプ次期大統領の経済政策への根強い期待や好調な経済指標を受け、週を通して株価が上昇、主要3指数が揃って週間で3%超上昇してそれぞれ史上最高値を更新しました。

ダウ平均は週間で600ドル近く上昇し、2万ドルの大台に手が届きそうな水準まで上昇しています。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



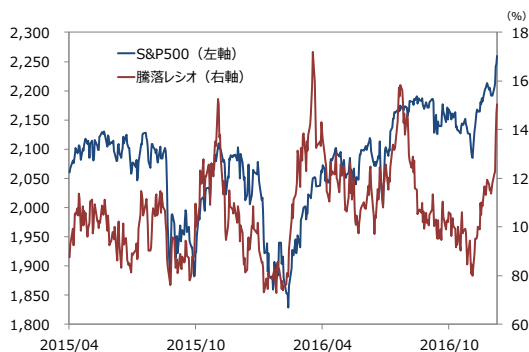
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	18.1	3.3	2.4%
S&P500	19.0	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.6	3.7	1.2%

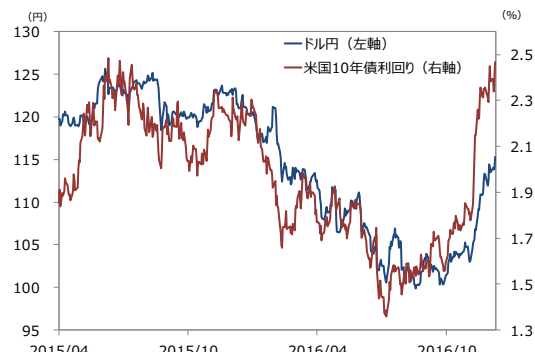
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年12月9日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

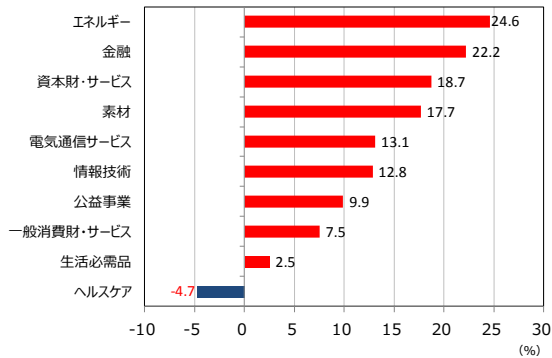
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

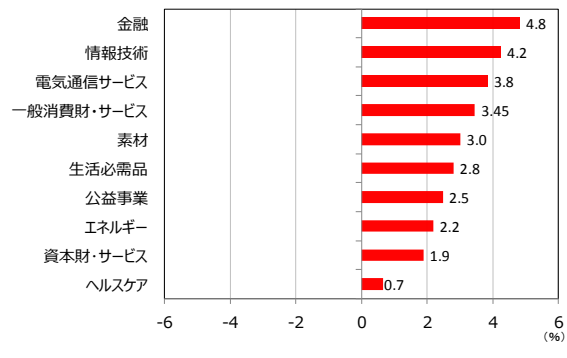
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (12/5-12/9)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	8.3
DIS	ウォルト・ディズニー	6.5
JPM	JPMorgan・チェース・アンド・カンパニー	4.8
INTC	インテル	4.7
MSFT	マイクロソフト	4.6
V	ビザ	4.5
KO	コカ・コーラ	4.1
IBM	IBM	4.1
AXP	アメリカン・エクスプレス	4.0
AAPL	アップル	3.7

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (12/5-12/9)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-1.1
UNH	ユナイテッド・ヘルスグループ	-0.4

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均を構成する 30 銘柄のうち 28 銘柄が上昇しました。中でも次期トランプ政権で財務長官などの要職への起用が続くゴールドマン・サックス (GS) が 8%を超える上昇で 2 週連続でダウ平均採用銘柄の中で上昇率トップとなりました。また、JP モルガン (JPM) も 5%近く上昇しています。また、来年最高経営責任者 (CEO) の交代を行うと発表したコカ・コーラ (KO) も 4% 超上昇しました。

<下落>

ウォルマート・ストアーズ (WMT) とユナイテッド・ヘルスグループ (UNH) の 2 社が下げました。中でもウォルマートは 1%超下げています。

先週発表された主な経済指標

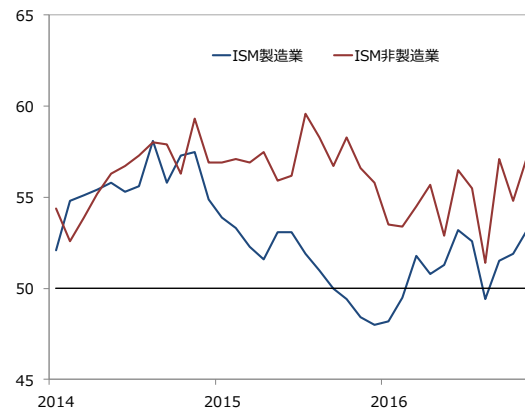
ISM 非製造業景況感指数 11月 57.2 市場予想 55.5 前月 54.8

5日に発表されたISM非製造業景況感指数は57.2と市場予想(55.5)を上回って前月(54.8)から改善する好内容でした。

ヘッドラインを構成する4項目の内訳をみると、雇用・業況・入荷遅延の3項目が前月から改善し、新規受注は小幅な悪化でした。

先に発表された製造業指数とともに前月から改善しており、米国経済の先行きを見通す上で好材料となりそうです。

ISM景況感指数（製造業・非製造業）



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

連邦公開市場委員会 (FOMC)

13日から14日にかけて連邦公開市場委員会 (FOMC) が開催されます。イエレンFRB議長をはじめとしたFRB高官たちは早期の利上げ実施を示唆する発言を行っており、今回の会合で1年ぶりの利上げが決定される可能性は非常に高そうです。

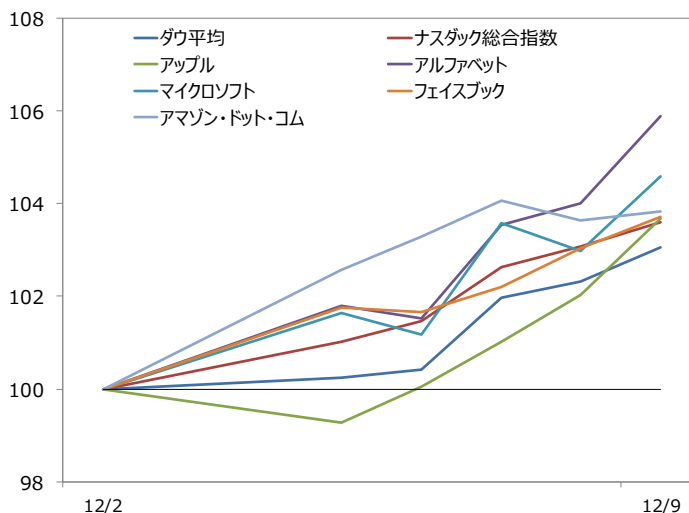
今回の会合での焦点は利上げの有無よりも、「来年以降の利上げペース」ということになりそうです。3月・6月・9月・12月のFOMC後には「プロジェクション」と呼ばれるFOMCメンバーたちの経済予測が公表されます。9月のFOMC後の2017年末のFF金利予測の中央値は1.125%でした。この予想が上方修正されることになれば、一段のドル高要因となりそうです。

マーケットビュー—FOMC 後に発表されるプロジェクションに注目—

先週の米国市場は、主要 3 指数が揃って史上最高値を更新しました。先週のマーケットビューでは、アップル (AAPL)、マイクロソフト (MSFT)、アルファベット (GOOGL)、フェイスブック (FB)、アマゾン (AMZN) といった時価総額の大きいハイテク株の株価が出遅れていることをご紹介しました。

短期的な大幅上昇を期待していたわけではありませんが、ご紹介したハイテク各社は先週のレポートを執筆した前営業日である 12 月 2 日の株価を 100 とするとすべての銘柄が上昇し、さらにすべての銘柄が同期間のダウ平均のパフォーマンスを上回りました (グラフ参照)。

主要指数および主要ハイテク株の株価推移 (12/2 = 100)



(出所) Bloombergデータよりマネックス証券作成

今週はなんといっても FOMC に注目です。利上げの実施自体は織り込み済みで、焦点は今後の利上げペースにどのような示唆が行われるかということです。9 月の FOMC 時のメンバーの予想より大幅な上方修正となれば、米金利の上昇そして円安ドル高要因になるとみられます。一方で米金利の大幅上昇は株式投資に対する相対的な魅力を下げため、米国株に利益確定売りが出る契機となる可能性があり注意が必要でしょう。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会